

矢農建第1424号
平成20年10月16日

国土交通省 道路局長 殿

矢掛町長



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあったことについて、別紙のとおり回答します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岡山県矢掛町

1. 地方の道路は主に生活道として利用されており、救急車や消防車が入らない家が多く、生活に密着した道路整備が望まれている。2車線以下の道路、たとえば1.5車線の道や幅員が4mの道路整備の要望が強く、こういった道路の整備に要する費用は、自治体の単独費で対応しており整備の遅れにより過疎化が進んでいる。補助事業(交付金事業を含む)は、2車線化が原則であるがこれでは金も時間もかかる。せめて、車がすれ違うことが出来る幅員の道路改良工事に対しての補助制度を検討していただきたい。

地域が自らの知恵・金・責任において地域生活道路計画・建設が出来る体制をいかにつくるかである。国主導全国一律型道路仕様の見直し、地方単独事業に関して地方交付税による起債元利償還を一部措置する制度のあり方の見直しを検討していただきたい。

2. 地方の300番台は国道のイメージが弱い。矢掛町唯一の国道486号は岡山県が管理しているが、一車線あたりの幅員が狭い。近年の車両の大型化に伴い大型車両のスムーズな通行が出来ない。そのため、朝夕の通勤時には停滞につながっております。

単に経済効果や投資効果のみにより整備を進めるのであれば、今後地方の格差はさらに大きくなってきます。地方の活力につながるような道路整備のシステムに改善することを提案します。

今後の道路行政についての意見・提案

様式②

②－１ 地域の現状と抱える課題

岡山県矢掛町

○現状

道路改良を行ってから10年、20年経つと、交通形態や周辺の状況も大きく変化しております。

また、高速道路が整備され I . C . の利用により通過交通車両が増えており、朝夕の通勤時には他市町村の車両が多く混雑している。

隣接する市町とのアクセス道の整備が遅れている。

○課題

生活道として改良した道路の利用状況が、通過交通車両の利用が多く、車両の大型化に伴い路面の痛みが激しく部分的な補修では対応できなくなっている。

舗装構成見直しによるオーバーレイ等に対しての国庫補助制度がない。

市町村の活性化や市町村間の広域的な連携・交流は重要課題であり、これを実現させるためにも地方の道路整備促進は緊急を要している。

今後の道路行政についての意見・提案

様式③

②－２ 地域の目指すべき将来像

岡山県矢掛町

道路は、町民の基本的な生活基盤であり、住民生活の利便性を向上させると共に、地域の産業・経済を支える重要な社会資本です。地方においては、生活の中で車に頼らざるを得ない状況であり、生活に密着した道路整備が求められております。

地方の高齢化が進む中、災害時に孤立する山間部の道路整備が遅れております。救急車や消防車も近づく事が出来ないような幅員の狭小な道路が多く、こういった場所に住んでいる人に対しても幅広い対応が望まれております。

今後は、利便性や時間短縮を目的として道路整備ではなく、生活に密着した「安全安心」を目指した道路整備が求められている。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

岡山県矢掛町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
交付金制度の見直し	幅員4メートルの道路を対象とした道路改良事業。	救急車や消防車が来ることにより、「安心・安全」の生活が確保できる。	
国道の整備	300番台の国道整備(車道の拡幅)の推進。	町内の幹線国道を整備することにより、地域の活性化が図れる。	



東から西方向へ

西から東方向へ